

ソーシャルワーク専門職のグローバル定義

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい¹。

2014年7月メルボルンにおける国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 総会及び国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASW) 総会にて採択。

グローバル定義のアジア太平洋地域における展開

アジア太平洋地域は多くの異なるコミュニティと人々を代表している。本地域は、地域内移住に加え、地域固有及び植民地化の歴史によって形成されてきた。世界で最も豊かな国々の一部に加え、経済的に最も困窮している国々の一部もこの地域に含まれている。異なる宗教的・哲学的・政治的な視点をもつ西洋と東洋、また南半球と北半球が交わる地域である。気候変動、限りある資源の濫用、自然災害及び人災による深刻な影響を受けてきた地域でありながらも、地域内の人々のストレングスとレジリエンス¹が繰り返し示されている。

アジア太平洋地域におけるソーシャルワーク専門職は以下を重視する：

- ニーズが満たされ、人権と尊厳が守られることにより、全ての人々に適切な社会的な保護が提供されることを保障するにあたり、我々専門職によるケアと共感を実現する
- 人々の生活における信仰、スピリチュアリティまたは宗教の重要性を容認し、また様々な信念体系を尊重する
- 多様性を賞賛し、対立が生じた際に平和的な交渉を行う
- ソーシャルワーク実践において、クリティカル²で、研究に基づく実践／実践に基づく研究の諸アプローチと共に、地域内の民族固有の知及びローカルな知と営みを肯定する
- 環境保全において革新的で、持続可能なソーシャルワークと社会開発実践を推進する

1) 困難や苦境に直面しながらも平衡状態を維持する能力とされ、「復元力」「精神的回復力」「抵抗力」「耐久力」などと訳されることもある。

2) クリティカルとは、実践を科学的・合理的見地から吟味し、また検証を加え、常に最良の実践をめざすことを意味する。

=====

2016年6月ソウルにおける国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域（IFSW-AP）総会及びアジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）総会において「アジア太平洋地域における展開」を採択。日本語訳の作業は社会福祉専門職団体協議会と（一社）日本社会福祉教育学校連盟が協働で行った。2016年11月14日、IFSW-AP及びAPASWEとしての日本語訳「アジア太平洋地域における展開」を決定した。

グローバル定義の日本における展開

日本におけるソーシャルワークは、独自の文化や制度に欧米から学んだソーシャルワークを融合させて発展している。現在の日本の社会は、高度な科学技術を有し、めざましい経済発展を遂げた一方で、世界に先駆けて少子高齢社会を経験し、個人・家族から政治・経済にいたる多様な課題に向き合っている。また日本に暮らす人々は、伝統的に自然環境との調和を志向してきたが、多発する自然災害や環境破壊へのさらなる対応が求められている。

これらに鑑み、日本におけるソーシャルワークは以下の取り組みを重要視する。

- ソーシャルワークは、人々と環境とその相互作用する接点に働きかけ、日本に住むすべての人々の健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を実現し、ウェルビーイングを増進する。
- ソーシャルワークは、差別や抑圧の歴史を認識し、多様な文化を尊重した実践を展開しながら、平和を希求する。
- ソーシャルワークは、人権を尊重し、年齢、性、障がいの有無、宗教、国籍等にかかわらず、生活課題を有する人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現に向けて関連する人々や組織と協働する。
- ソーシャルワークは、すべての人々が自己決定に基づく生活を送れるよう権利を擁護し、予防的な対応を含め、必要な支援が切れ目なく利用できるシステムを構築する。

「日本における展開」は「グローバル定義」及び「アジア太平洋地域における展開」を継承し、とくに日本において強調すべき点をまとめたものである。